

なんで辞任したの?

なぜ選挙になるの?

橋下氏辞任の経過

2013年
1月

大阪都構想の議論を行う特別区設置協議会(法定協議会)が設置され、知事、大阪市長と9人ずつの府議、市議の計20人で構成。

2013年
8月

第6回法定協議会に橋下市長、松井知事が大阪市を解体し再編する4つの案を提案(人口30万人規模にする7区案と50万人規模の5区案があり、それぞれ北区と中央区の分離案か統合案がある)。

2014年
1月

第12回法定協議会(1月17日)で、知事、市長が4つの区割り案から「5区分離案」に絞り込むことを提案するが結論持ち越し。

2014年
2月

第13回法定協議会(1月31日)、「1つの案に絞り込むのは時期尚早」との意見が出され自民、公明、民主、共産が継続した話し合いを主張。

橋下市長が「逆切れ」、夏までに「5区分離案」の設計図をつくるため「住民の後押しが必要」として辞任、選挙を表明。

反対意見は排除する!? 不当な争点づくり

選挙をしても議会や法定協議会の構成は変わりません。そこで橋下氏は「(出直し選は)法定協議会のメンバーを代えるかどうかの大戦だ」と発言し、自民、民主、共産3党の6名の委員を締め出することを選挙の「争点」にすると言いました。2月12日に「反対派も入れるが、維新過半数」とくるくる変えながら「議会封じ」「議会つぶし」は一貫しています。「選挙結果」によって議会に反映された「民意」を排除しようというのです。こんな「争点」はまさに不当です。

ムダづかい 選挙に「大義なし」

市長選挙の「大義なし」との批判が強まる中、橋下氏は3日の辞任会見で「大義は大あり」と語気を強め「夏までに一案に絞った設計図を完成させる」と言います。要するに選挙に「大義」があるのでなく、「話し合いの継続」を求める議会の意思を無視し、自らがすすめる一案への絞り込みの「大義が欲しい」(2月1日の日本維新の会)だけなのです。「税金のムダづかい」の声があがるのは当然です。

「都構想」の是非は住民投票で?!

「都構想」の是非は「出直し選挙」ではなく「住民投票」だと橋下氏は言いますが、一昨年夏の記者会見でこんなことを語っていました。「住民投票があっても、問われるのは『区割り』だけ。『大阪都の是非』は問われません」。

つまり、「住民投票」で「×」とされても、その時に示した「区割り案」が否定されただけだから、別の「区割り案」を出して、やりなおせばいいと言っていたのです。これはペテンです。

橋下市長が突然辞任し、6億円をかけた市長選挙が3月に行われます。辞任会見で「夏までに(議論がとん挫した)大阪都構想の設計図を作らせてほしい」と訴えます。市民生活にかかる新年度予算を決める直前に、その責任を投げ出すなどおよそ考えられない非常識なことです。

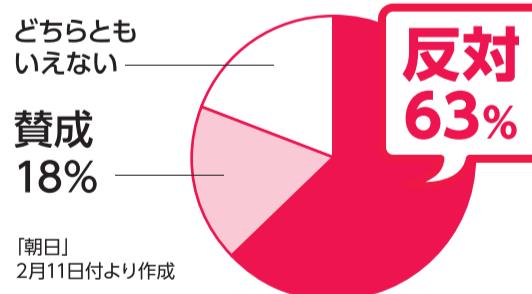
何の大義も道理もありません

「選挙」を「議会封じ」の道具に!

けったい
やな~…



大阪都構想に反対する自民、民主、共産の議員を法定協議会から外すという主張について



橋下市長の、
6億円出直し選挙

予算決める直前 わがままの辞任で「大混乱」

市民生活に直結する予算が話し合われる前に市長が辞任を表明したことで市政は大混乱。日本維新の会の大会で橋下共同代表が「自分のことは自分で守る、自分のことは自分で決める」と発言していますが、石原共同代表でさえ疑問を示し、橋下氏自身も2月12日付ツイッターで「大義がない」とつぶやいています。市民の代表たる市長として「自分のこと」だけでなく最低限の思慮が必要ではないでしょうか!?

いっしょに考えましょう！

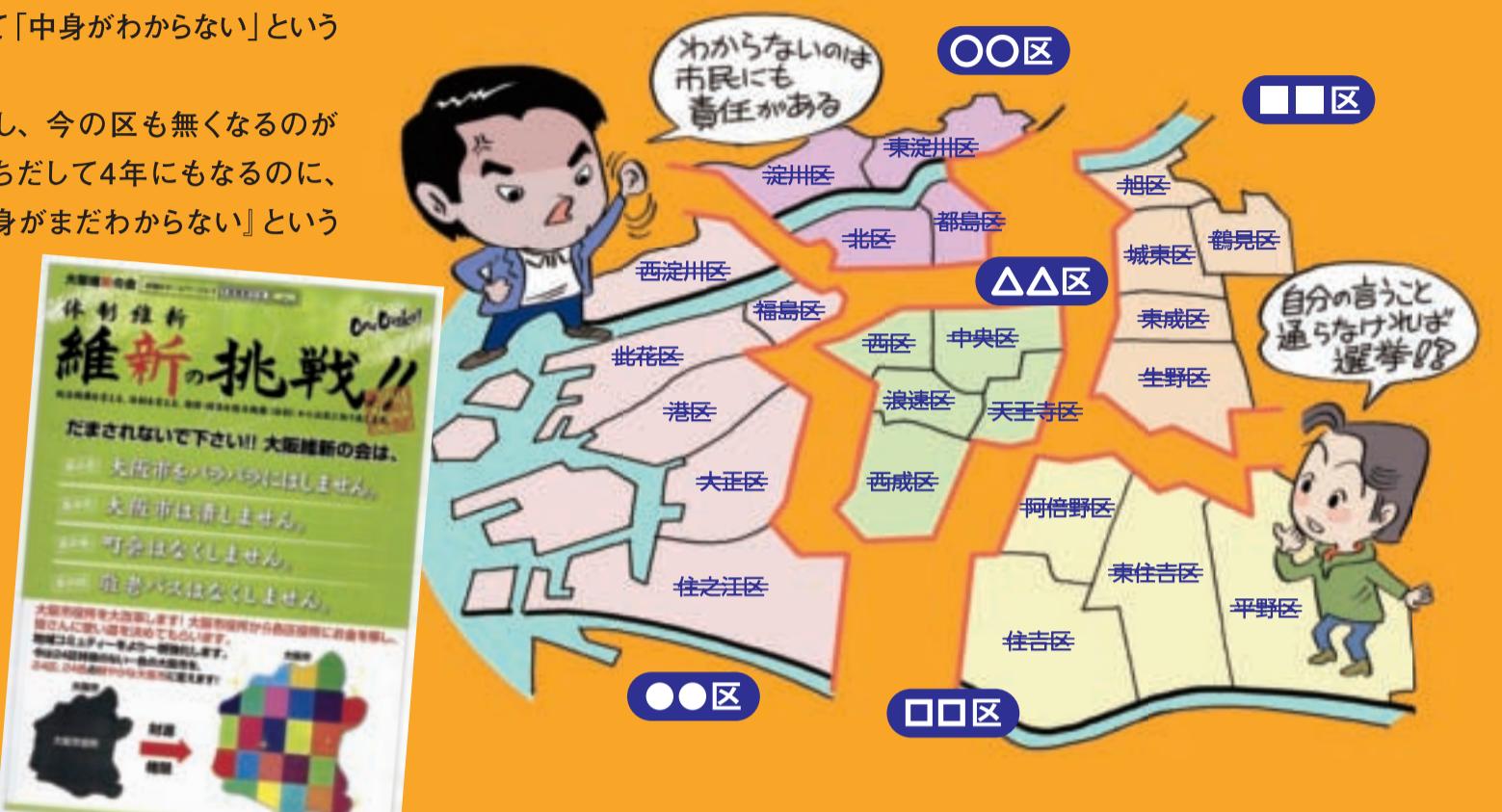
なんで大阪市をなくさなアカンの？

「大阪都構想」って「中身がわからない」という声がいっぱいです。

大阪市を「解体」し、今の区も無くなるのが「大阪都構想」、うちだして4年にもなるのに、維新府議さえ「『中身がまだわからない』という住民の圧倒的な声がある」とボヤきます（1月31日法定協議会）。

橋下氏は「すべて資料はホームページに出している」「市民のみなさんにも責任がある」（2月3日）と市民に八つあたり。

2011年の市長選挙ではこんなビラも…→



大阪都構想 Q&A



Q 「一人のリーダー」で大阪は豊かになる？

A 「カジノだ!」「リニアだ!」と無駄な浪費もやりたい放題

橋下氏は「世界からヒト、モノ、カネ、企業を呼び込む。これが大阪都構想」といます。しかし、その手段ではっきりしているのは、「カジノ」誘致、「梅田から関西空港への『なにわ筋線』建設」「高速道路淀川左岸線の延伸」などです。

「なにわ筋線」は2000億円前後かけて、関空までの時間短縮はたったの5分、1分短縮するため400億円もかかります。ハコもの、大規模開発事業の失敗をまた繰り返すのでしょうか。



Q そもそも「大阪都」って？

A 「大阪市」をつぶし、財源と権限を「一人のリーダー」に

大阪市や堺市をなくし、その権限と財源を「一人のリーダー」にゆだねる。そうすれば、「二重行政の無駄が省けて財源が浮く」と宣伝しています。しかし、大阪市を解体して、無理やり「特別区」をつくっても、新庁舎の建設、区議会の設置など巨額のコストがかかり、赤字が続き、住民サービスに回す財源はでてきません。

Q 選挙で選ばれた区長で市民サービス良くなる？

A 厳しい財政で住民サービスは引き下げられる！

橋下氏は選挙で選ばれた区長になれば住民サービスが良くなると言いますが、新しくできる「特別区」の財源は、元々の大阪市の財源を3割から4割も「大阪都」に抜かれます。「特別区」がやりくりするには土地を売って稼いだり、職員を削減することを見込んでいるのです。

住民サービスと言っても、無い袖は振れません。

「大阪都」で二重行政解消、4000億円節約できるはウソ！

橋下氏は「大阪都で4000億円節約できる」と言ったのは「僕と知事との悪い癖で、勢いで」（2月9日タウンミーティング）と言い訳。これは明らかに大ボラ・虚言です。

節約効果額せいぜい9.4億円

橋下市長が出した「制度設計案」には、効果額は700億円だけ。これも「大阪都」とは無関係の中身を入れた「粉飾」だったことがマスコミで批判されています。市民サービスを切り捨てる市政改革プラン（237億円）、ごみ収集の民営化（79億円）などを含めていたのです。日本共産党市議団の試算ではせいぜい9.4億円しかなく、メッキはすでにがれています。

「特別区」を作るのに税金いっぱい必要！

新たに「特別区」を作るには、コンピュータシステムの改修、庁舎の整備・建設、移転など初期コストが莫大にかかります。これを過少に見せるため庁舎は建設せず足りない場合は民間ビルを借りて間に合わせ、住民票などのシステムは共同利用するとしています。これでは住民の混乱とともに、大阪市を解体する意味さえないことを示しています。

「二重行政」解消で大規模開発の無駄が無くなる？

橋下氏は「二重行政」だからWTCやりんくうゲートタワーなど、莫大な無駄づかいがあったと主張します。これは全く違います。府も大阪市も財界の利益のため不用なハコモノづくりに税金の無駄づかいをしたのです。橋下氏はむしろ「大阪都」にして「カジノ」誘致など、またまた莫大な無駄づかいをめざしているのです。